

## 第 14 回県西地域活性化推進協議会 結果概要

(R4.3.30 16:00~17:15 オンライン開催)

### ○ 開会

### ○ 知事あいさつ

#### 黒岩知事

本日は大変お忙しい中、県西地域活性化推進協議会にお集まりいただき、心から感謝申し上げます。

また、委員の皆様には日頃から県政全般の推進にご協力をいただき、併せて御礼申し上げます。

昨年3月に「県西地域活性化プロジェクト」を改定してから、1年が経過した。

これまで、県をはじめ、市町や民間が連携し、平成26年から未病の改善をキーワードに「県西地域活性化プロジェクト」を進めた結果、地域全体に未病の考え方が広く浸透し、未病コンセプトを生かした取組も数多く生まれてきた。

そこで、プロジェクトの改定では、未病改善の普及啓発から、実践を進める段階にステージを上げ、取組を行うこととした。

また、コロナ禍をきっかけとした社会環境の変化を踏まえ、ウイズコロナ時代の生活スタイルに適した地域という強みを生かし、関係人口の創出や、移住・定住の促進に積極的に取り組むこととしたところ。

県では今年度、市町の未病改善の取組を後押しするため、未病改善ができる施設や観光スポットを掲載した広域案内板を設置するなど、新たな取組も進めているところ。

さらに、4月には、未病バレー「ビオトピア」に、温泉水を利用したフィットネス施設がオープンするということで、県西地域がさらに盛り上がっていくことを期待している。

本日は、今年度の取組状況と来年度の取組内容について、委員の皆様からのご報告をいただけるということで、協議会で情報を共有し、意見を交換していきたい。

限られた時間ではあるが、プロジェクトの更なる展開のために、忌憚のない議論をお願いしたい。

- 「令和3年度の県西地域活性化プロジェクトの取組状況」及び「令和4年度の県西地域活性化プロジェクトの取組」について、市町、民間事業者及び事務局から説明\*。

(※) 小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町、株式会社ブルックスホールディングス及び事務局

## ○ 意見交換

### 小田原市長

今、周辺の市町の取組、それから、ビオトピアさん、神奈川県の話の話をいただき、色々なアイデアとか、連携をこういうふうにしたらいいのではないかと思ったところ。ぜひ、新年度も色々ご指導いただきたい。

今、移住・定住のお話が出たので、来年度の取組も含めて、本市の取組を紹介したい。

コロナ禍で環境が変わって、一昨年度、昨年度と続けて500人程度の転入超過、いわゆる社会増があった。残念ながら自然減があるので、総体的には人口減少になるが、社会増が500人程度あったというのは、ある意味ピンチをチャンスに変えるネタかなと思う。

テレワークの推進などもあって、働くということや、暮らすということなど、色々なことがだいぶ自由に、幅広い選択肢ができてきた。こういったことがきっかけとなり県西地域の魅力に改めて気付いた方が移住をされているのではないかなと思う。

ただ、それは県西地域だけではなくて、藤沢市さんなどはもっともっと多くの移住がある。これは神奈川県全体にとってチャンスだと思う。移住の戦略は市町それぞれだと思うが、本市の移住の戦略は、まず交流人口。小田原に一回も来たことがない人がいきなり移住をするということはないので、交流人口として、何かをきっかけとして小田原に来てもらう。そして、一回小田原に来ることがあったら何度も何度も小田原に来てもらう。いわゆる関係人口。その後、例えばお試し居住などを繰り返して、移住への関心を持ってもらって、移住につなげる。そして、長く住んでもらう。そんなサイクルを回している結果が、先ほどお話しした成果につながっているかなと思っている。

そして、本市の場合は年間5千人から6千人の人口移動があるが、アンケートをとって、なぜ小田原に来たのか、なぜ小田原から出ていくのかと、その辺りのマーケティングをしている。それに加えて、様々な移住の相談の仕方、例えば、ふるさと回帰支援センターを活用するとか、オンラインの移住相談会を

やるとか、外部人材の移住コーディネーターをお招きするとか、様々な取組を行っている。

加えて言うと、つい最近の話で、移住の動画を作ってホームページにアップしているのだが、この動画が国際観光映像祭日本部門のwebシリーズ部門で最優秀作品賞を取ったという嬉しい情報も飛び込んできた。色々な情報を複層的に重ねているというところで、段々認知度が高まってきたのかなと思う。

最後に一点、質問と要望だが、県の取組の広域ワーケーションについて、令和3年度はコロナ等の関係で難しかったので令和4年度に改めてということだが、もう少し具体的に、どういうことをやっていくのか、特に広域ということに関して、何かイメージがあればお伝えいただきたい。最後に、これは提案だが、黒岩知事はさかんにテレワークを推奨されていると伺っているが、移動知事室なんていうものを県西地域に開設してみてもいいか。本市のいこいの森という場所を喜んで提供させていただく。よろしくお願ひしたい。

#### **地域活性化担当課長**

広域ワーケーションの、広域のイメージだが、具体的な事業としては、これから事業者プロポーザルの形で具体的な提案を受けるところだが、一つの所で終わってしまうのではなく、ワークの部分については例えば森の中、それこそ「いこいの森」とか、そういったところのワークスペースでやっていただき、地域の方々との交流は、例えば海でビーチクリーンを行っていただくというような形で、小田原と真鶴、湯河原であったりだとか、もっと足柄上の方も含めてという形で2市8町に移動していただくような形での広域、というイメージで組み立てようとしているところ。宿泊を伴うイメージで考えているが、宿泊場所でワークをするのではなくて、宿泊場所とワークのスペースは別にしようとか、宿泊場所とはちょっと違う場所で地域の方と交流していただく。そういったようなイメージで考えている。

#### **黒岩知事**

面白い提案。最近移動の車の中でも打合せをしたりする。だから、移動知事室というのは面白い発想だなと思う。ある日は、「今日は、小田原城で仕事しています」みたいな。そういうのもいいかもしれない。色々と検討してみたい。

#### **小田原市長**

よろしくお願ひしたい。

## 横浜薬科大学 渡辺教授

本当にこの進捗状況は素晴らしくて、何年か前の協議会で、点では各自治体がかんばっているが、それを面としてつないでくださいという要望を出した。まさに連携が深まっているなというのがすごく感じられて、今日は非常に感銘を受けて聞いていた。特にサイクリングについて、残念ながら、今は来られないが、海外の人はすごくサイクリングが好き。コロナが明けて、海外の人が来るようになったら、おそらく、サイクリングをしに県西に集まる日が来ると考えているので、非常に素晴らしい取組と思って聞いていた。

## 黒岩知事

コロナ禍で色々な制約がある中だったと思うが、それぞれの市町が様々な創意工夫を凝らして、色々なことをやっているということを知って非常に心強く思ったところ。

ただ、改めて確認をしたいが、県西地域活性化プロジェクトは未病改善という言葉がキーワードだと、これを再確認していただきたい。健康推進とか、健康増進とか、色々な言葉があるが、我々は未病改善というキーワードによって全部をつないでいこうとしているという、この原点だけは改めてご確認いただきたい。先ほど、未病バレー「ビオトピア」の様々な挑戦というか、動きをお聞きいただいたと思うが、我々のこの県西地域のひとつのイメージ・構図は、未病バレー「ビオトピア」に来ていただいて、未病コンセプトで県西地域にわっと広がっていく、つながっていくというものを考えている。日本郵便と神奈川県とビオトピアで包括連携協定を結んだということは、非常に大きなきっかけになるのではないかなと思っている。何と云っても、郵便局というのは地域に完全に根差しており、また、地域とつながっている。この、地域に根を張っている郵便局とビオトピア、神奈川県が結び付いて、未病コンセプトを徹底的にそれぞれのお家にまでつなげていくということをやろうということなので、未病という言葉に引っかかるという形を改めて再確認いただきたい。

先日、ラジオの番組でこのような話が出ていた。糖尿病の死亡率、これは神奈川県が一番低い。糖尿病の死亡率がなぜ低いのかということを持ち出して、それは、「かながわ糖尿病未病改善プログラム」というのが神奈川県にはあるんです、これがそういう成果に結び付いているんですという話を、なんと、東京都医師会の先生がラジオで話していて、これがネット上にも出ていた。神奈川県で糖尿病の死亡率が低いのには訳がある、というような形が出ていた。

それから、日経新聞の一面にも出ていたが、神奈川県は老衰で亡くなる方の数が多い。これは、未病改善を全県挙げて取り組んでいることの成果だと私は思っている。

そんな中、ねんりんピック 2022 というイベントが 11 月にある。これは高齢者、シニアの国体のようなもので、様々な運動競技だけではなく、文化的なイベントもいっぱいあるもの。これを神奈川県は、全県を挙げて盛り上げていこうとしているが、今ひとつ知名度が上がっていない部分がある。本来であればもっとキャンペーン展開をやりたかったのだが、コロナ禍でなかなかできない部分があった。ちょっと出遅れ感はあるが、しっかりと盛り上げていきたい。そして、このねんりんピックというのは毎年、開催地の都道府県が変わっていくのだが、今年は神奈川県の番。これはサブタイトルを付けていて、「ねんりんピックかながわ 2022 未病改善でスマイル 100 歳」。これを機会に未病というコンセプトについて、ねんりんピックを使っても、日本全体に広げていきたい。

先日、ねんりんピックを盛り上げるための動画の作成、今、始まっているところです。先日、私も参加してきたが、LUNA SEA（ルナシー）の河村隆一さんが曲を作ってくれ、ラッキィ池田さんが振りをつけてくださり、皆で歌い踊るという形で盛り上げていくという、そういう動画も作って、もうすぐ配信する。このような取組により、ねんりんピック 2022、これを盛り上げていくということを皆さんにぜひ、改めてお願いしたい。

また、皆さん色々な動画を作られて色々展開されているということを知った。最近、かなチャンTVでも紹介したが、宮ヶ瀬湖のキャンペーン動画が非常に面白い形で作られた。これは宮ヶ瀬ダム周辺振興財団が作った、5話連続のミニドラマになっていて、プロの役者さんたちが演じているのだが、こういう形のプロモーションもあるのかとびっくりしたところ。普通、プロモーションと云ったら、それぞれのところに行って、ここにはこんなものがあります、こんなグルメがあります、食べていきましょう、体験してみましようなどとするのが普通だと思うが、宮ヶ瀬湖の動画は、ドラマ仕立て。市役所職員の女性と、少し不思議な探偵の物語になっており、それを、追っかけっこしたりしながら、いつの間にか自然な形で、宮ヶ瀬湖の色々な魅力を知ることができる。ドラマそのものも非常にクオリティが高いものなのだが、見ていると、宮ヶ瀬湖に一回行ってみたいくなるなど、そんな仕掛けになっている。

先ほど、守屋市長から最優秀作品賞を取った動画があるという話を聞き、開成町長からも環境大臣表彰で大賞を受賞したという話を聞いた。皆さん、様々な努力をしていることが評価されているということをもっと把握したい。共有して、そういうことが神奈川県で出ているんだということアピールしたいと思っている。それだけ皆さんのがんばりが評価されたものは県としても思いっきりアピールしたいと思うので、どんどんそういった意味での情報提供をお願いしたい。これからコロナ、ウイズコロナ、それからアフターコロナに向かっ

ていくと思うが、一体となって、このチーム神奈川を盛り上げていきたいので、どうぞこれからもよろしくお願ひしたい。

○ 閉会